

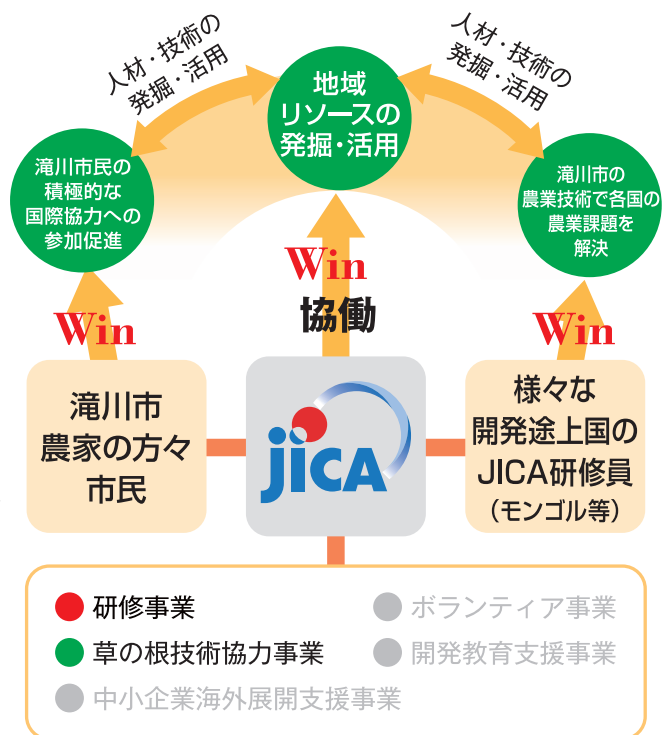


# 道内屈指の稲作地帯“滝川市”が 農業で国際貢献！

研修員受入が国際協力への積極的な市民参加のきっかけに

一般社団法人滝川国際交流協会と市の国際課が、まちの強みである農業分野で開発途上国の研修員を受け入れている。また、モンゴルでは草の根技術協力の下、野菜栽培とその加工技術を指導する。

【活用した事業】	研修事業、草の根技術協力事業
【パートナー】	滝川市、滝川市の農家の方々・関係機関、 滝川市民並びに周辺地域住民
【繋がっている 開発途上国】	様々な開発途上国のJICA研修員 (モンゴル、モザンビーク等)



- 地方自治体
- 非政府組織
- 教育機関
- 民間企業

- 研修事業
- ボランティア事業
- 草の根技術協力事業
- 開発教育支援事業
- 中小企業海外展開支援事業



# 滝川市が誇る高い農業技術力が、世界で躍動！

北海道中央部に位置し、およそ4万1,000人が暮らす滝川市。人口が決して多いとは言えないこの滝川市だが、古くから国際交流・国際協力への取り組みを盛んに行っている。1980年代のキルナ市（スウェーデン）への技術移転を皮切りに、国際交流を積極的に進めようという民意の高まりから、1990年に発足したのが現在の一般社団法人滝川国際交流協会だ。

国際交流だけでなく国際協力にも力を入れようと、今日に至るまで市と一丸となって、JICA 研修事業や草の根技術協力事業を活用し、農業分野等の技術指導に取り組んでいる。

研修員受入当初は、見慣れない外国人の姿に戸惑いを感じていた市民だが、スタディツアーや JICA 研修員との交流の機会を繰り返し設けることにより、徐々に解消されたようだ。また、市の強みを生かした農業分野では、地元農家の方々が研修員に稲作栽培や野菜栽培の技術指導を行っている。農家の方々から「技術支援を行うだけではなく、途上国の様子を把握したい」との声が上がり、実際に研修参加国の1つであるマラウイ共和国を訪れる等、市民が積極的に国際協力に参加している。



JICA 事業以外でも、自治体職員協力交流事業を活用して2011年度からモンゴルの研修員受入を行っており、北海道指導農業士である農家が稲作の基礎知識と技術を指導している。この事業を通して明らかになったモンゴルの農業分野の課題を解決するため、2016年度から JICA 草の根技術協力事業を活用し、玉ねぎなどの野菜栽培や、農産品加工の技術研修を実施している。まちぐるみで取り組む国際協力、そして強みである農業が、地元地域だけでなく世界をも元気にしていこう。

（なんぷろ学生レポーター：斉藤 万季）



滝川市長  
前田 康吉氏

滝川市民一人一人が持つ、国際感覚そして国際的なおもてなしの心が、他地域に劣らない市の魅力を形成していると感じています。



やまきファーム  
北海道指導農業士  
山木 昇氏

農業技術の確立は、短期間でできるものではないので、10年・20年という長いスパンで途上国への支援・協力関係を続けて行きたいと思います。



一般社団法人  
滝川国際交流協会 会長  
水口 典一氏

JICA からの受託事業を活用させて頂き、当協会の事業をより良いものにしていくことで、市民の国際協力への理解、そして参加を促していきたいです。



暑寒の森道づくり研究所  
所長・北海道指導林家  
畠山 寿市氏

現地に赴くことで環境や状況が理解できる面が多々ある。今後も現地の方に寄り添った支援を継続していきたいです。



斉藤 万季さん

国際協力・国際貢献に力を注ぐ滝川市の取り組みが、今後も継続して行われていくことを強く望みます。



本件にかかるお問い合わせ

**JICA 札幌**

〒003-0026

北海道札幌市白石区本通16-4-25

TEL：011-866-8383